

第 386 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 4 年 11 月 1 日 (火) 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] FM Mars～ラジオ・ザ・プラネット～
[放送日時] 令和 4 年 10 月 6 日・10 月 27 日(土)21:00～21:30
[出演者] 川崎玲奈

4. 出席者 [委員] 委員長代理 服部乃利子 副委員長 角田哲康
委員 加藤裕治 委員 小野晃司 委員 土屋維子
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明

事務局報告

○ K-mix の現状に関する報告

6. 番組審議

- [対象番組] FM Mars～ラジオ・ザ・プラネット～
[放送日時] 令和 4 年 10 月 6 日・10 月 27 日(土)21:00～21:30
[出演者] 川崎玲奈
[番組内容] 「宇宙にある架空のラジオ局＝FM Mars が、K-mix の電波を借りて火星の磁気嵐の間隙を縫って 30 分だけ番組を放送。番組パーソナリティ≪ステラ・レイン (川崎玲奈) ≫は AI パーソナリティで地球の生活を学ぶようにプログラムされており、放送を通じて地球の聴取者から、様々な情報を吸収して行く…という設定の番組。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

「番組全体の雰囲気は好感が持てる」という前提で、なぜ、実在の星にしたのか (架空の星にしなかったのか)。空想に振り切ってしまうと良いのではないかと思う。内容面では「事実」と「空想」が混在しており、すぐに理解できない時がある。また、パーソナリティは AI ではなくても良いと思う。しかし、番組の聴取時の世界観や選曲、トークのトーンに好感が持てる。自分としては、番組を新鮮な感覚で聴くことができたので、是非、これからも番組を長く続いてほしい。

小野委員

映画「2001年宇宙の旅」、音楽的にはYMO（イエローマジックオーケストラ）の世界観がイメージされる番組だが、これは、委員の皆様の年代が青春時代に想像していたものと合致するからであると思われる。また、メールを寄せてくれる年代も経験を重ねた方が多く、若者は見当たらない。現在の若者に合う内容も必要ではないか。パーソナリティは、AIである必要があるのかどうか。現在のAIは番組の想定したAIよりも人間に近い表現ができると思う。しかし、AIを演じる川崎のキャラクター、脚本力は評価できる。

加藤委員

パーソナリティの川崎は、アート志向が強く、現在の若者的な所もあって、「ポピュラー前衛」的であるが、内容は、委員の世代では、「火星」を空想の対象とするなど、懐かしさも感じさせてくれる。また、番組では、川崎の能力が十分に発揮されているものの、前半は知性や才気を感じさせ、後半は割と通常のラジオ的な展開で、大衆性を感じさせる。番組の方向性としては、今後の展開を、どこまでも、先鋭的な方向性を貫くのか、それとも、聴取者に多くの共感を持ってもらうのが課題であり、注目されるところである。

角田副委員長

パーソナリティ・川崎の安定したトーク、番組としての様々な試みを良しとした、局の番組作りに対する姿勢、音楽の選曲に対するこだわりは評価できる。一方、「中高年の火星に対する当時のあこがれ」を番組の中心に据えても、若者層には響かないのではないか。番組に登場する“火星”に対して、何かしらの“設定”がないため、空想が広がっていかない。“火星”ではなく、もっと、思い切った架空の星等に設定を変更してみたほうが、構成としては面白くなる可能性を感じる。

服部委員長代理

番組の前半を聴かずに、後半だけを聴くと、後半のテーマや雰囲気は火星的（空想的）でない回もあるため、テーマ選びを注意しないと、いわゆる「普通のラジオ番組」に聴こえてしまう。但し、宇宙からの放送をテーマにした番組コンセプトは興味深い。「長く続いてほしい」、「火星を同名の架空の星として細部を聴取者・スタッフ等で作ってみてはどうか」といった、感想にとどまらずに、設定や企画内容までが各委員から意見として出てくることは、川崎玲奈の才能を含め、これからも見守って行きたいという魅力を感じさせる番組である。

会社サイド

すべての番組制作にあたって、「本音」「節度」「距離感」を意識するよう、伝えており、この番組もフィクションとはいえ、その点に留意している。今後、本日お話しいただいた、様々な課題や期待に応えられるように、設定を含めて、イメージを膨らませながら制作して行きます。

次回開催日 令和5年1月10日（火） 16:00～18:00 を予定

以上

番組審議会委員長代理
服 部 乃 利 子